

高松スタイル

# Anki

[あんき]

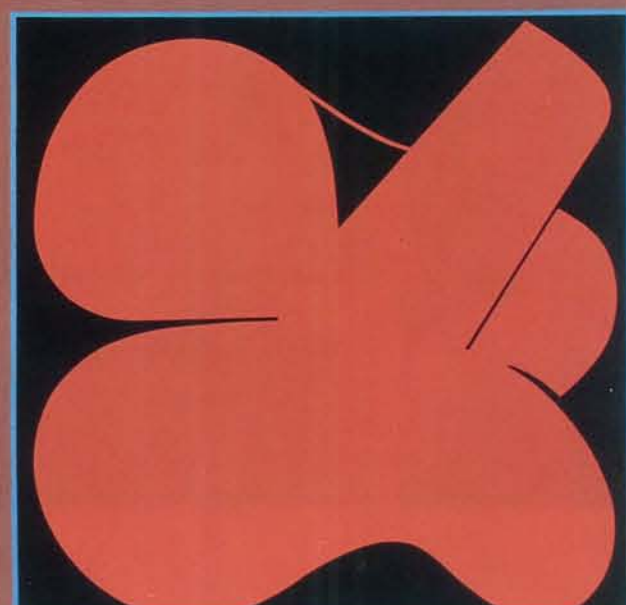
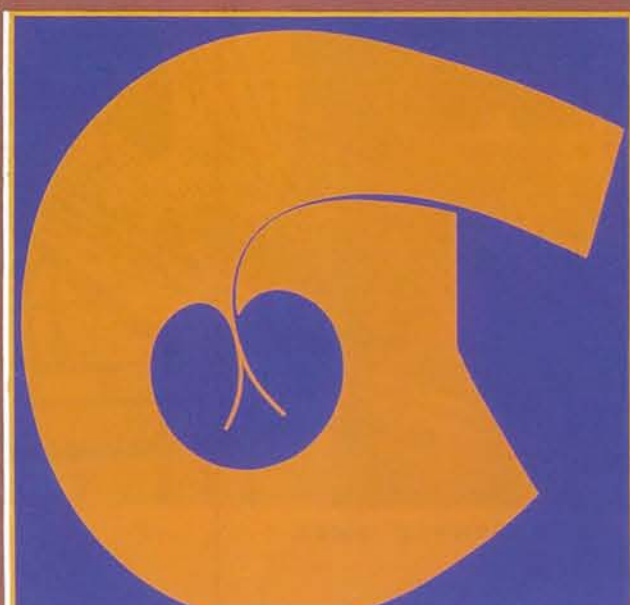
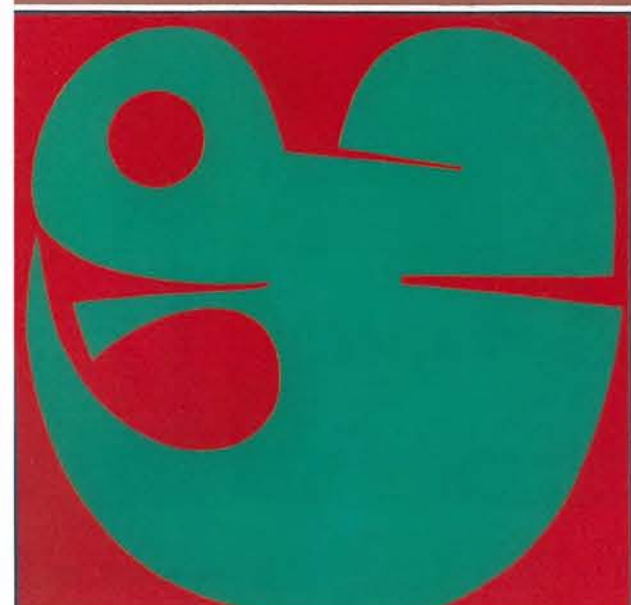
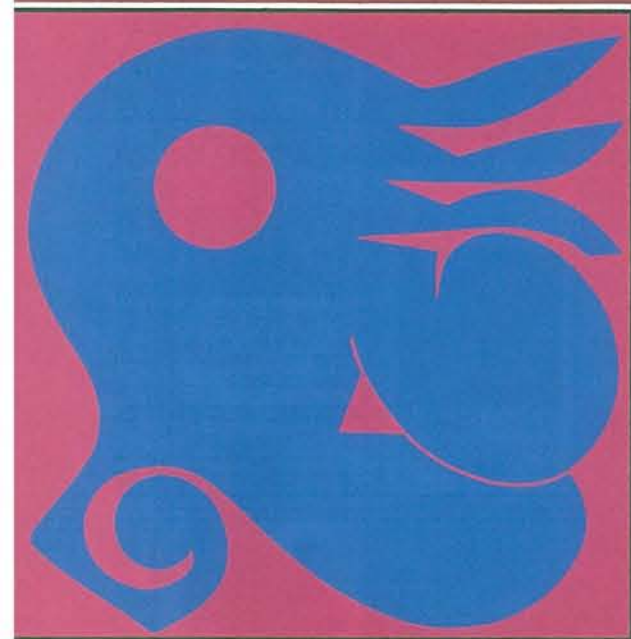
Takamatsu Style Anki

創刊2号

Vol.02 April 2007

## 特集 / 瀬戸内・直島でモダンアート

- ・民家で開店する島カフェ
- ・アート解説員に全国からボランティア
- ・住宅地にそよぐ「アートのれん」





# 宇高連絡船に

## 瀬戸の旅情を詠った阿久悠

### 「波止場町」

作詞 阿久悠  
作曲 猪俣公章  
歌 森進一

一、  
肩で泣くような 別れなど  
したくないわと 言ったのに  
海峡一つに 心を裂かれ  
鷗死ぬように 恋も死ぬ  
函館 函館 波止場町

二、  
夜の伊勢佐木 ブルースに  
にがい酒のむ 人もいる  
あなたひとり が 男じやないと  
酔った女が 泣く町は  
横浜 横浜 波止場町

三、  
瀬戸は凧いでも この胸は  
つらい未練の 風が吹く  
あなたがつけた あの夜の傷が  
消える頃には 忘れましよう  
高松 高松 波止場町

四、  
今度逢えたら 意地も捨て  
燃えて何度も すがりたい  
恋にめくらの 女がひとり  
泣いてたずねて 来た町は  
鹿児島 鹿児島 波止場町  
函館 横浜 高松 鹿児島  
恋と涙の 波止場町

※注：この曲が発表されたのは昭和47年。  
歌詞の中に一部不適切な表現が含まれますが差別的な意図はありません。作品を尊重し原文のまま掲載します。

「港町」と言えば漁船や繁華街を連想させるが、私  
にとつての「波止場町」は例えば連絡船のある町。人々  
が行き交うプラットホームのイメージでしようか」と語る  
のは、作詞家の阿久悠さん。自らも宇高連絡船に乗った  
ことがある。幼少時代、淡路島から両親の故郷の宮崎  
を訪ねる際、岡山から連絡船で高松へ渡り、さらに松山  
から船で大分を経て九州へ渡ったと言う。今では考え

© 1972 Victor Entertainment, Inc. JASRAC出0701412-701



宇高連絡船の名物、甲板のうどん店が登場したのは昭和44年。多い時には1日2000食が売れ、競い合って行列を作ることも。イリコの香りが望郷を誘った。





高松スタイル

# Anki

Vol.02 April 2007 [あんき]

### 【安気(あんき)】

心に苦しみがなく、気楽でのんびりしていること。また、そのさま。讃岐弁では、のんびりと心晴れやかな人のさまを表して「安気でええのう」という風に使う。高松スタイル「Anki」は、讃岐の暮らしの中に眠る「日常の豊かさ」に光をあてながら、新しい高松ライフを提案する大人の文化情報誌です。

## C O N T E N T S

### 特集 モダンアートの直島

- 島カフェが相次ぎ開店…………… 04
- ボランティア解説員も全国から …… 06
- アートに共鳴する島民たち …… 08
- CREATOR  
荒牧太郎…………… 10  
「マドモアゼルノンノン」「パバス」
- SHOPの顔  
デザートディッシュ／代表 川野 洋さん …… 12  
moani／店主 矢野和宏さん …… 13
- ARTIST  
讃岐漆芸の祖 玉楮象谷 …… 14  
中国漆器を再現
- HISTORY  
さめきの歴史を探る【II】…………… 16  
配流の崇徳上皇
- LIFESTYLE  
香川県綾川町・滝宮の「岡田うどん」… 18
- OPINION  
都市景観は誰のものか…………… 20
- VOICE  
商店街のQ&A …… 22

### ◎表紙作品



川島 猛 作「NY.73-J.T.-5」1968-73年制作 203.2cm×406.4cm アクリル画 大原美術館蔵



川島 猛 かわしまたけし

昭和5年生まれ77歳。この作品は、代表作「赤と黒」と同じく、人体の部分イメージさせる家紋のような有機的な抽象形態を、正方形の枠に入れた作品。見る者に日本の伝統を感じさせ、海外でも評価が高い。作品サイズは縦約203cm×横約406cmで、一つの枠は約68cm角。倉敷市の大原美術館に収蔵されている。

られないほど遠回りだが、戦後復興のさなか、四国と本州を結ぶ宇高連絡船は、「海の道」として瀬戸内の人々の往来の要であった。

「波止場町」が発表されたのは昭和47年で、日本有線大賞歌唱賞を受賞した。沖繩返還、日本列島改造論の田中内閣が誕生した年だ。当時、宇高連絡船は昭和49年をピークに長らく旅客量日本一を記録していた。その数年間約30万人。多い時には船の客室から甲板まで人が溢れ、着岸後も乗り継ぎ電車で運れまいとプラットホームを走る群衆の姿がよく見かけられた。その中には、様々な思いを胸に故郷へ帰る人、また新天地をめざして旅立ってゆく人…。連絡船にまつわる思い出を語る人は少なくない。しかし車社会の到来によって、昭和63年、瀬戸大橋開通とともに高松のシンボルは78年間の歴史を閉じた。

現在の高松港は、再開発によって一部が埋め立てられ、平成11年に、サンポート高松として生まれ変わった。当時の地図をたよりに現在の高松港周辺を歩いてみると、ちょうど全日空ホテルクレメント高松と高松港旅客ターミナルビル間に乗船桟橋があったようだ。昔の面影はないが、ホテルの東側には「讃岐丸」の錨が記念碑として置かれている。またその西側には、旧高松駅のシンボルだった花時計も健在だ。港を見守る赤灯台からは、今も変わらず静かな瀬戸内の風が吹いている。



阿久 悠 おく ゆう (作詞家・作家)

1937年兵庫県淡路島生まれ。尾崎紀世彦「また逢う日まで」、沢田研二「勝手にしやがれ」、ピンクレディー「UFO」など数々のヒット曲を作詞、その数は5千曲を超える。1997年、第45回菊池寛賞(日本文芸振興会主催)、1999年、紫綬褒章を受賞。また「瀬戸内少年野球団」をはじめ作家としての著作も多数。

宇高連絡船の開業は明治43年。出航ドラや大声で叫ぶ乗客と見送りの人々、そして別れを惜しむ紙テープが名物であった。一時、紙テープとドラが廃止になったこともあったが、旅客らの強い要望で昭和59年に復活。その後は、出航5分前になると録音テープでドラの音が流れ、新婚旅行シーズンには「ウエディングマーチ」、転出入の多い春には「はたの光」などが使われていた。写真は昭和63年(1988年)の光景。



写真提供/高松市歴史資料館



素朴な木造民家を活かした「和cafeくう」。  
初代リーダーの中村文昭さん(右端)他、スタッフは香川大学の学生たち



今や世界に名だたる  
現代アートの巡礼地、直島。  
アートと昔ながらの佇まいが  
共存する町並みを歩けば、  
島を愛してやまない  
人々の笑顔に出会う。  
アートをきっかけに人がつながり、  
島全体が元気になっている。  
瀬戸内海の小さな島で起こっている  
新たな芽吹きを追った。

営業日 土日祝(時期により変更)



# 直島

アートをきっかけに  
繋がる人々



# 古民家で「島カフェ」

◎和cafeぐう



築50年の木造民家を改装。約30人の学生が交代でスタッフを務める。「直島☆のりのり井」をはじめ、メニューはすべて学生たちが開発。男子学生も台所に入る(右)



一昨年、経済学部の学生たちが地域活性化を学ぶゼミで直島を訪れ、飲食店の少なさにほとほと困ったという。「だったら、直島で

「和cafeぐう」は、かつて水軍の城があり、今も城下町の佇まいを残す本村地区にある。ノスタルジックな町並みの一角で「ぐう」を経営するのは、国立香川大学の学生たちだ。

## 経営者は大学生

ある冬の朝の直島行きフェリー。乗客がまばらな船内で、楽しみに笑いあう女の子たちが目に留まった。大学生かな？今日は一日、現代アートを巡るのだからかと、勝手な想像をしながら眺めていた。再び彼女たちと出会ったのは、一息つこうと立ち寄った木造民家のカフェ。といっても、「お茶」をしていただけではない。「いらっしやいませ！」。フェリーで見かけた笑顔がそこにあった。



高松港からのフェリーが着く宮ノ浦港。海の駅おしま広場には、草間彌生さんの作品「赤かぼちゃ」が鎮座

カフェやったらええんちゃうん！。ゼミ生の一人、中村文昭さん(23歳)の一言に周りが賛同し、ゼミを指導する古川尚幸助教や大学の協力を得てプロジェクトを発足。資金集めに始まり、企画から運営まですべてを学生たちで行い、昨年8月、オープンに漕ぎつけた。

「来る前は現代アートの島と聞いてツンとしたイメージがあった。今ではこんなにあったかいいところはなかなかないな、と思う」  
ご近所さんの「なんがでつきよんな」から始まるたわいない会話から、島の人たちが自分たちの奮闘を温かく見守ってくれていることをいつも感じていた。

「よくおにぎりや豚汁を差し入れてもらったよね」「今日も新品のポットを譲ってください」「この間、バスに乗り遅れたら港まで送ってくれたの」と他のメンバーも彼の言葉に続く。

オープンから半年、土日祝日だけの営業にもかかわらず来店客は1000人を超えた。その多くは一見の観光客だが、常連客となるのももちろん島の人の。メンバーのひとり、広田育子さん(22歳)は、「最近、どんなん？」って言いながら立ち寄ってくれるんです」と、島の人々の気遣いに感謝する。メンバーたちは、島の人に愛される場所にしよという思いをますます強くする。

中村さん、広田さんをはじめ、数人のメンバーは今春、大学を卒業し、ぐうを離れる。「就職活動とカフェの準備で大変な時期もあつたけど、こんな場所を作れてよかつた。ここに来ればまた島の人たちと会えますから。言いだしっぺは満足気な笑顔でそう言った。

## 島に移り住む

本村では、直島でアート活動に取り組みベネッセコーポレーションが、古い民家をアート空間として再生する「家プロジェクト」を展開している。観光客が多く訪れる場所でありながら、以前はひと休みできる場所すらなかった。それが

◎カフェまるや



島カフェの先駆者、大塚ルリ子さん。代表メニューは、豆腐と野菜たっぷりの「まるやのカレー」。素朴な味わいのスイーツや手作りメニューも揃う

ここ1、2年で、カフェやうどん屋、テイクアウトの店などが立て続けに開店している。  
その先駆けとなったのは、3年前にオープンした、島で初めての「カフェまるや」だ。店主は埼玉県出身の大塚ルリ子さん(34歳)。「直島を訪れた寒い冬の日、凍えた手を温めようと買った缶コーヒーがぬるかったんです」  
期待外れの缶コーヒーに背中を押されるように大塚さんは島に移り住んだ。空き家だった民家を改修したまるやは、まるで以前からそこにあったかのように自然なりとご近所に溶け込んだ。また、大塚さん自身もご近所さんに「ルリちゃん、ルリちゃん」とかわいがられ、今では讃岐弁が口をつ

◎玄米心食あいすなお



定食は、発芽玄米と郷土料理の具汁、野菜のおかず。「心身に優しい」がコンセプト

いて出るほどに島の暮らしに馴染んでいる。  
同じく本村で「玄米心食あいすなお」を営む通称SARIさんは、神奈川県からの移住。「沖縄に行く途中に立ち寄り、訪れて3日目にはここに人々が交流する場所を作りたいと決心。ミラクルなハナシでしょ」とあつげらんと笑う。  
直島らしい「食」を提供したいと考えたSARIさんは、島の伝統食のひとつ、大豆スープの具汁を復元しようと、島のお年寄りを訪ね歩いた。多くのおばあちゃんが「うちの具汁はねえと懐かしい島の味、家庭の味を語ってくれた。」  
SARIさんの誘いに乗って島にやってきたのは、神奈川県でイブハウスを経営していた遠藤

- Data**
- ◎和cafeぐう
    - 問い合わせ先/naoshima-p@ec.kagawa-u.ac.jp
    - 営業/土・日・祝日の11:00~17:00 (ラストオーダー16:30)
  - ◎カフェまるや
    - TEL/087-892-2714
    - 営業時間/11:00~18:00 (ラストオーダー17:00)
    - 休/不定休
  - ◎玄米心食あいすなお
    - TEL/087-892-3830
    - 営業時間/11:00~18:00
    - 休/月曜(祝日は営業)



「よそ者」の若者たちが開いたカフェを支えるのは、島の人々のあつたかいおせっかい。その気持ちに応えるかのように、今日も店にはぎわっている。

「希薄な都会とは異なる環境にさぞかし戸惑ったのではと思ったが、それが全然。ありがたいことの方が圧倒的に多いですよ」。  
畑仕事に挑戦したら、近所の人を手取り足取り教えてくれた。店の改修に手こずっていたときも、大工道具持参で手伝ってくれた。まるで島ではこうするのが当たり前前というように。「都会よりもぐんと近い人と人の距離が、意外にも心地いいんです」。



◎石橋 明治時代、製塩業で栄えた商家、石橋家の母屋には日本画家、千住博さんの作品。赤、青、黄といったカラフルな海の絵15点が大広間に飾られている。



アートに魅せられ  
全国から



◎旧床屋 / 会場は三菱マテリアル直島製錬所従業員用の旧理容院。  
島の名産の鯛を題材にした三宅信太郎さんのインスタレーション





◎旧床屋/A,B

鮮やかな色彩の壁画や錆のぬいぐるみが出迎え、昭和30年代の香り漂う作品。作品ごとにノートが置かれ、「担当したボランティアが観光客からの質問やその日の出来事を書き込んで」と藤江達也さん



◎はいしや/D,E

錆びたタン板を貼り付けた建物は、大竹伸朗さんが元歯科医院兼住居の空き家をまるごと作品化したもの。「本物の船の一部を使った立体作品や、潜望鏡を使って本村の風景が見える仕掛けもあるんですよ」と森下加菜さん



◎ピンボンギャラリー/H,I

建物は、牛舎→幼稚園→卓球場に転用されてきた歴史を持つ。ここには、宮本隆司さんが直島で撮影したピンホール写真を展示。「担当する作品も、出会う人も毎日変わります」と言う佐伯恵美子さん



◎空/C

「家プロジェクト」が公開されている本村地区の一角に登場したのは、妹島和世さん・西沢立衛さん/SANAA設計の公園。鑑賞する場所によって円盤に写り込む風景が異なる。直島での日々が刺激的でたまらない様子の藤井俊輔さん

◎石橋/F,G

内倉には大広間(右ページ)の絵とは印象がガラリと異なるモノクロームの色調の滝。天候によって絵の印象が変わるのが興味深い。梅木隆さん(左)と一緒にガイドにあたるのは「和cafeぐう」のスタッフでもある広田育子さん



島時間とでも言いたくなるような、ゆったりとした時間が流れる直島で3ヶ月を過ごした。「地元で帰るのが怖い。人の波に乗るには少しリハビリが必要かも」と笑う。空家家の歯科医院兼住居をまとめることになった「はいしや」では、森下加菜さん(28歳・大阪府)に会う。大学の頃から現代アートが好き。改めて美術を勉強したいと思いついて、派遣会社との契約終了を待って

「旧床屋」で出会ったのは、藤江達也さん(22歳・神奈川県出身)。建築を勉強していた学生時代に島にある安藤忠雄氏の建築を見に訪れたことがある。勤務先を退職した頃、ボランティア募集を知り、すぐさま応募した。島を訪れた安藤忠雄氏とも会った。「この人がきっかけで今、自分はこのにいるんだと思うと、これまでのいろんな出来事が一つの線でつながった気がした。次の何かが見えてきたかな」

現在、島をまるごと美術館に見立てた現代アートの企画展「直島スタンダード2」が開催中だ。現代を代表する11人1組の作家が手がけたアートが島のあちこちに点在する。現代アートに造詣が深くない身としては、作品の前で「ん？」「うーん」と唸ることもしばしば。そんな心中を察してか、そつと声をかけてくれる人がいる。「この建物は、昔は床屋として使われていたもので」。全国各地からやってきたボランティアスタッフの若者たちである。

アートのある日常

「同じ釜の飯を食べる経験は予想以上に参加した。彼女のような社会人が、長期、短期の休暇を利用して参加するケースも少なくない。スタンダード2ではすべての作品が島の歴史や景観、生活に融合するよう制作されている。「それだけに島に馴染んだ、似合う作品ばかり。3ヶ月も暮らすと新鮮さはなくなつたけれど、「アートのある暮らしが普通」ってスゴイことですよ」。

「心」の秘密基地  
「ボランティアスタッフの醍醐味は共同生活に尽きますよ」と興奮気味に語るのは、広島でアートマネジメントに関わっている藤井俊輔さん(23歳・広島県)。スタッフは滞在中、三菱マテリアルの木造平家の旧社宅で共に暮らす。夜遊びできるスポットがあるわけではなく、部屋にはテレビもない。だから自然と会話が広がる。「全国各地から集まってきた人たちは、それぞれ自分の中にその土地の文化を持っていて、そうした仲間との関わりを通して新たな発見もありました。人として成長できたかな」。

中にはプロの作家を目指す人も。梅木隆さん(29歳・福岡県)は、写真家志望。作品の制作段階から作家のアシスタントとして関わっている。「チームで行われる制作の過程を間近で見ると、作品は人との関わりの中で成り立っていることを実感。あらゆることを勉強になります」。世界が目にするアートの現場に身を置く幸せをかみしめる。「写真で食べていく気持ちがいっそう強くなりました」。



**NAOSHIMA STANDARD 2**  
ベネッセコーポレーション(岡山市)と直島福武美術館財団が「アートの日常化」をテーマに開催する現代美術展。後期日程は4月15日(日)まで。  
TEL/087-892-2887  
開催時間/10:00~17:00  
休/月曜  
鑑賞料/大人2,000円、12歳以下無料  
(連続する2日間有効。「きんざ」を除く家プロジェクトの鑑賞料金を含む)

上に刺激的と語るのは佐伯恵美子さん(23歳・京都府)。知り合ったスタッフは社会人が多く、「こういう大人になりたいなあと思わせる人にたくさん会いました」。島の人たちにも随分と世話になった。彼女に限らず、スタッフたちはみな親切にされて島での日々を過ごしている。彼らが一日の活動を終え、社宅までとぼとぼ歩いていくと、住民が「乗っていくか?」「ジュース、よかったら飲んでよ」と差し入れ、「今日は寒かったねえ、お疲れさん」と優しくねぎらう。「島の人は警戒心がなさすぎます。知らない人をそんなに簡単に車に乗せて大丈夫なの?」ってこっちが心配するくらい」と佐伯さんが苦笑するほど温かい。佐伯さんの言葉を借りれば、彼女にとっての直島は「心の秘密基地」。藤井さんは「人の温かさにそられる島」と言い表した。「直島にはまた絶対に来ますよ。だって、会いに来なきゃならない人が何人もいますから。お金ためてまた来ます」。

◀nendoデザインによるnaoshima standard 2サイン計画





◎ 暮会所 / 須田悦弘さんの作品展示用に建てた書斎風の日本家屋。作品は木彫りの椿の花(左)。畳に「散る」その姿は本物と見間違ふ。庭に植えた本物の椿の木から風に運ばれたようだ

ひなびた味わいの路地が交差する本村地区。民家の軒先に揺れるのれんもアートプロジェクトの一環



### 島民のおもてなし

直島は古くは海上交通の要衝で、中世には本村に水軍の拠点があり、江戸時代には廻船業で

島の人との距離が近いのは、移住者やボランティアだけでは、観光客も然り。

「島の観光パンフレット、お持ち？よかったですらどうぞ」。本村の路地で奥さんから声をかけられた。地図を片手にキョロキョロしていると、「どこ行きたいん。暮会所？こつちや、ついておいで。すれ違ひざま、手押し車のおぼあちゃんに「はい、いらっしやい」といわれ、こちらも思わず「はい、お邪魔しています」。

栄えた。大正時代、三菱鉱業(現三菱マテリアル)が銅精錬所を構えてからは企業城下町として栄えたが、70年代から従業員数が減り、島の人口も減少。他の島しょ部の例に漏れず、高齢化が進む。

島が注目を集め始めたのは、十数年前、ベネッセコーポレーションが島の南部に現代アートを軸とした文化村づくりを始めてから。92年に現代美術館とホテルの複合施設であるベネッセハウス、04年には地中美術館(財)直島福武美術館財団運営、昨年は海岸沿いに新たなホテル棟を設けた。13年前は1万人程度だった観光客が、昨年は19万人に。うち1割は外国人だ。

「ベネッセが本村で現代アート





上原三千代さんによる作品。島の人に昔から親しまれてきた直島八幡神社の随神門の中にいる



# 島の住民も共鳴

をやるという聞いたときは、なんか妙なもんができるんちがうかと心配しとった」と不安を抱く人も多かったという。

しかし、島の伝統や佇まいをそのまま生かした「家プロジェクト」は、島の人々を安堵させるとともに、多くの観光客をも呼び寄せ、新風が吹き始めた。焼き板の黒壁に格子窓、漆喰の土蔵、入り組んだ細い路地など、島の人にとっては見慣れた風景が、観光客には驚きと感動を与える。他者の目を通して、自分たちが持っていた豊かさを再認識し始めた。

アートだけじゃない島を伝え、島そのものを好きになってもうための、「おもてなし」をしようという行動を起こす人々が増えた。その一例が「観光ボランティアガイドの会」の誕生。会の設立に尽力したのは、7年ほど前から本村の案内をしていた高橋昭典さん（79歳）だ。60〜70代の仲間を中心に十数人が参加、島の歴史や現代アートの勉強を重ね、自分が暮らしてきた島を案内する。「仲間から70歳の頃より今の方が若々しいって言われるんですよ。ガイドやって元気をもらっている、そんな

な気がします」。

## 瀬戸の花嫁、笑う

前出の観光パンフをくれた奥さんは、本村に住む堺谷明子さん（72歳）。家の屋号は「堺屋」で、江戸時代の全盛期には北海道まで渡航していた廻船問屋だ。築170年になる家屋の一角に、当時、使われていた船筆筒や船行灯、荷札に蝦夷地図など珍しい品々を並べ、ちよつとしたミニギャラリーを公開している。「瀬戸の花嫁」として島外から嫁いできたウソ十年前は、さびしくてお月さんを見ては泣いていたの。今は毎日、笑っている。思いがけない人にたくさんお会いできるもの。この島じゃないとこんな経験、できないわ」。堺谷さんのアルバムには、「堺屋」を訪れた人との記念写真が増え続けている。

島を訪れたコピーライターの糸井重里氏に「一匹観光課」とネーミングされたのは、立石肇さん。本村散策の間、立石さんに何度出くわしたことだろう。時間ができれば路地や家々を回る。困っている観光客がいれば声をかけ、手助けする。写真を撮ろうとしてい



一匹観光課、立石肇さん(左)は毎日、大忙し。直島を訪れるならぜひ覚えておきたい顔



屋号「堺屋」の堺谷明子さん(左)宅は小さな博物館のよう。老若男女、外国人もふらりと立ち寄り、堺谷さんとの楽しいひとときを過ごす



ボランティアガイドの会を立ち上げた高橋昭典さん。島の歴史に精通し、現代アートに関する勉強も重ねている

ば、カメラマンを買って出る。宿が決まっていなないと聞けば、民宿を紹介する。釣りはかなりの腕前らしく、お望みとあらば島周辺の好ポイントに案内。「釣り好きの糸井さんはものすごく喜んでくれたわ」。こんな風に誰に頼まれたわけではないのに、一人、朝から晩まで飛び回る。「みんな高いお金つこうて、わざわざここまで来てくれた。『直島に来てよかったわ』って思うて帰ってほしいやん」。



**Data**

●直島へのアクセス

- 高松港～宮ノ浦港  
フェリーで約60分、小型高速旅客船で約25分。1日片道6便運行。4月15日(日)までの金・土・日・祝日のみ高松港発1便、宮ノ浦港発2便増便。
- 四国汽船  
TEL/087-821-5100



のれんは作家の加納容子さんが各家庭に取材し、屋号や印象を元に制作したもの。現在、約40数軒の家がのれんを掛けている



きちだゆう、あべすや、おおみやげ等、玄関先のプレートには「屋号」が刻まれている。島のお年寄りの中には「屋号」で呼び合う人も



本村のバス停では、バス待ちの観光客と島の人が談笑中。待合所が定位置らしい一匹の猫が会話に参加している光景が微笑ましい

「あ、この前、島に来とった子からお礼のメールや。メル友は全国に200人以上はおるかな。昨日は台湾の子から手紙が来たんよ」と豪快に笑った。

家プロジェクトのひとつ、「角屋」のあたりにいつも出没する猫がいる。立石さんは「オイ、仲村！」と飼い主の名で呼ぶが、「みーちゃん」という愛らしい名が本名だ。このみーちゃん、ネット上で密かな人気者になっているらしく、本人(猫)が知らないうちに被写体となっていることがある。飼い主の仲村千枝子さんの元に「みーちゃんの写真、送ります」という見ず知らずの人からの手紙が届いたのは、一度や二度ではない。そんな気持ちがいれしくて、仲村さんもまた、見ず知らずの観光客やボランティアで訪れた若者たちに「恩返し」をするという。

アートをきっかけに繋がった人々が、元気をあげたり、もらったたり、親切にしたり、されたり。そんな心地いつながりがこの島にはある。

(白井ひとみ)



# 体に馴染んだ服が一番

毎回、意外なモデルが登場する「パパス」の広告。

普通のお父さんや熟練の職人さんといった

市井の人々に始まり、役者や芸術家、スポーツ選手など、

どんなオジサンだってパパスを着れば

みんなイキイキと魅力的に変身する。

60年代、26歳の若さで原宿表参道に

「マドモアゼルノンノン」をオープン。

以来、半世紀に渡って「パパス」と

「マドモアゼルノンノン」の服を作り続けてきた。

そんな荒牧太郎さんに、高松丸亀町壱番街への

出店や洋服づくりへの思いを聞いた。



小雨の降る肌寒い朝、広尾本社の隣にあるパパスカフェを訪ねると、荒牧さんはすでにコーヒーを片手に新聞を読んでいた。トライアスロン歴23年、70歳を目前に今も現役のアイアンマンは、毎朝体を動かした後、ここでゆっくりコーヒーを飲むのが日課だという。

この日の荒牧さんの服装は、自らデザインしたスウェットにデューロイの8分丈パンツ、そして足はくるぶしまでの短いソックスにスニーカー。よく体に馴染んだスウェットは見るからに気持ちよさそう。「私は一年中これなんです。どんな豪華ホテルでも世界中こ

れで行ける所しか行かない(笑)。だつて無理をすると、気持ちが悪くなるでしょ。少しでも体に窮屈なところがあってイヤだと思ふと楽しくなくなっちゃう。だから、楽しい服を着ないと。洋服は自分が一番いいと思うもの、リラックスクスできるものを着るのが一番。自分が好きか嫌いか、気持ちいいかどうか、それだけですよ。」

他にも、デニムのジャケットには独自に麻を織り込み、袖を通して瞬間から何年も着込んだように柔らかく体に馴染む。素材や着心地へのこだわりに妥協はない。なぜなら、本当に気持ちいいもの、着て楽しいものを体が一番よく知っているからだ。

「オレがこうしてゆったりとコーヒーを飲む店が欲しい、というのが最初の発想。でも最初はみんなに驚かれましたよ。こんなもの作ってどうするのって。日本にはまだ屋外でお茶を飲む店がなかったからね。」

そんな荒牧さんは、高松丸亀町壱番街への出店でもまわりを驚かせた。パパスの店内で一際輝くシャンデリアはこの店のためにあつらえたもの。東京・丸の内本店にも負けない豪華な仕上げだ。さらにパパスカフェも全国で



パパス、マドモアゼルノンノンの最新カタログ(2007春夏号)。モデルたちの元気な笑顔が、荒牧さんの服を着る楽しさを伝えている



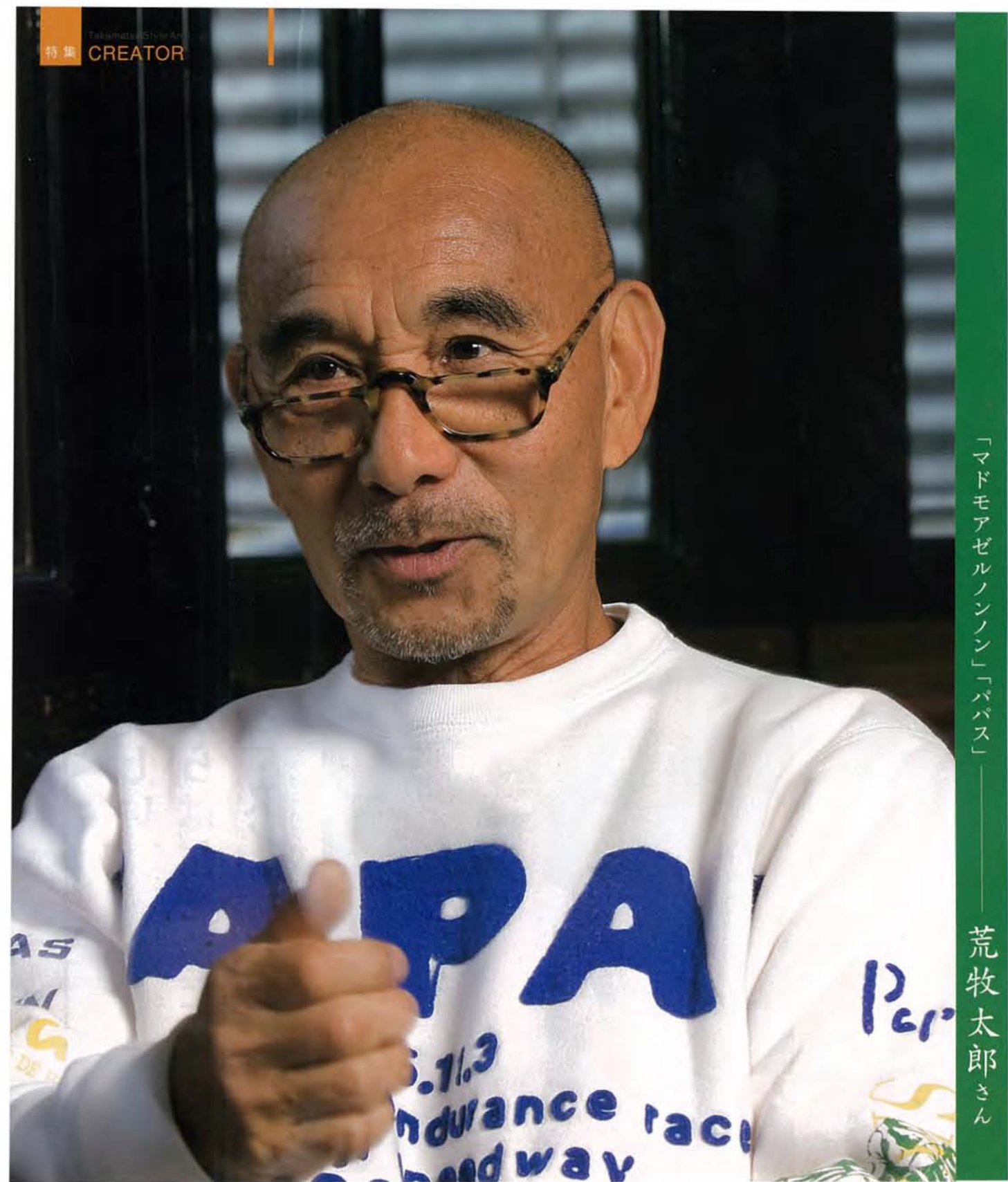
パパスカフェ1号店。緑に囲まれたオープンテラスは、パリの路地裏にあるカフェのように開放的。荒牧さんのたくさんの「好き」が込められている



荒牧太郎 (Taro Aramaki)

1939年、福岡市生まれ。1964年、原宿に「マドモアゼルノンノン」をオープンさせセレクトショップの先駆けとなる。1986年、メンズブランドの「パパス」誕生。洋服だけでなく、パパスカフェをはじめビザ専門店やパン屋なども展開。米国人作家のヘミングウェイを敬愛し、オフィスに専用のシャワー室を作ってしまうほど運動好き。





「マドモアゼルノンノン」「パパス」

荒牧太郎さん

をつくること。「僕の基本は、気配り、目配り、思いやりなんだ。相手がどうしたら喜んでくれるかをまず考える。お互いちよつとした思いやりがあればみんながハッピーになれるでしょ。自分だけよければという個人主義のままでは街はよくならないね」。

温かくそして厳しい。小さいサイズがなかったから。60年、70年代、原宿表参道で一世を風靡した「マドモアゼルノンノン」。かつてデザイナーやカメラマンなど若きクリエイターたちが軒を列ね、トレンドの発信基地

だったセントラルアパートの間口一帯の小さな店が荒牧さんの出発点だ。創刊当時の「ana」を開くと、パリジェンヌのように細みで小粋な横縞Tシャツは、若い女性たちの憧れの的だと番号のように紹介している。「ノンノンは、最初小さい人のための洋服がなかったから作っ

たの。SとかSSサイズね。サイズが合わない人には、無理じゃない？って正直に言っちゃうもんだから、お店ではしょっちゅう大げんかしてましたよ。でも体に合わない服を買わせるぐらいなら、ちゃんと言ってあげる方が親切だと思うよ。その代わりオーダーもやってたから、オーダーならどんな人でもその人にぴったりな服を作ってたからね」

### 洋服の力

人は着るものによって、様々な自分を演出することができる。書店に行けば大量のファッション誌が並び、こぞってこれが最新スタイルだと人々の変身願望をくすぐる。しかし次々と移り変わる流行の中で、本当に自分に似合うものを選ぶのはなかなか容易ではない。一方で荒牧さん

がつくり出すスタイルは、程よくトレンドを取り入れてはいるものの、いつの時代も基本は全く変わらない。

「例えば、ノンノンを着た時に、少しかわいくなったねって言うってもらえたらそれでいい。着た時に、なんかいいな、違和感ないな。そんな服を作るのが洋服屋。それでいいと思う。だって服を変えただけで別人になるわけじゃないんだから。自分をチェンジすることなんて出来ないでしょ。みんなそれぞれにいいものを持っている、こーじゃなきゃいけないってことはないんです。デザインって無限なんですよ、時間と一緒に人ごみの中に入ると、派手だから目立つわけじゃない。むしろ、シンプルだからこそ目立つ。その人が気持ちよく楽しく着ていれば自然と輝いて見えるものです、と荒牧さんは言う。

理想を追い求めてがんばり過ぎる人たちに、荒牧さんの服はもつとナチュラルに自分自身を楽しめばいいんじゃないかと語りかけてくる。着る人を元気づけてくれる服。時代を超えて愛されるベーシックの理由がほんの少しわかった気がした。(小西智都子)



東京のパパス丸の内本店。マホガニー調の重厚な木製扉を開けると、広い店内にはパパス、マドモアゼルノンノン、さらにパパスカフェが併設されている。天井の高さと木の温もりが心地よい





SHOP  
takamatsu style

の顔

03

デザートディッシュ

代表

川野 洋さん

Hiroshi Kawano

昭和38年、高松市生まれ。丸亀町発の名物スイーツを作りたいと2004年にたい焼きの「TAIHIME」屋台をスタート。この度、新たな商品を加え高松丸亀町壱番街に出店。

左/昭和33~35年頃の「上村屋」。一枚一枚、生地から手作業で仕立っていた  
右/昭和50年頃になると既製服が主流に。呉服店の隣に洋服専門店も併設した

**丸** 丸亀町壱番街・西館のエスカレーターを上ると、スワロフスキーに彩られたゴージャスなお菓子店が目に入る。といっても売っているのは、たい焼きにプリン、ロールケーキとお馴染みのスイーツばかり。「100万円の宝石を買う気分、1000円のスイーツを買って下さい」と語るのは店長の川野さん。以前、丸亀町商店街に週末だけ登場していた「オシヤレなたい焼き屋台」と言えば、わかる人もいるかもしれない。「丸亀町は昔から「よそ行き」を着てお買い物に来

る、そんな商店街でした。だからたとえ1000円のたい焼きでもそういうお客様の気分を壊したくなかったです」。10時から20時まで、食事の暇もなくたい焼き機に向かう毎日。しかし、はじめからお菓子のプロだったわけではない。  
**川** 野さんは、丸亀町で100年以上続いた生地・呉服の老舗「上村屋」の長男として生まれた。子どもの頃はお手伝いさんと10数人の従業員に囲まれ「とにかく女性の従業員に囲まれた」という。3代目の父は、昭和30年頃から和服に加え



おいしいは美しい。  
「たい焼き」からはじまった  
スタイリッシュ・スイーツ。



3 年後、帰郷してからは大手通販会社や百貨店に勤務、中でも旧コトデンそごう(現高松天満屋)では、外商担当として目の肥えた顧客を相手にさらに審美眼を磨いた。そうしたサラリーマン時代を経て、再び転機が訪れる。丸亀町再開発の話が浮上したのだ。「店がなくなってみてわかったんですね。やっぱり丸亀町で先祖代々受け継いだ商売の火を絶やすのが、やしいと思っただけです」。再開発ビルに自分の店を出そう。長い間、心の隅で燃っていた何かに火がついた。独立を決めて最初に目に止まったのは、商店街で週末に出る「ワゴン屋台」だった。「何でもよかった

洋服も扱うようになり、丸亀町の中でもいち早くブランド物の既製服を扱う進歩的な店だった。そんな環境で育ったのだから当然、4代目を継ぐもの」と、日本大学法学部を卒業後は高知の大手衣料品店(株)わしに就職。ところが3年後、突然実家が商売をやめてしまう。「好きにしたい」と言われ、再び東京に戻り「チャッククローズ」というイタリアの高級靴とジーンズを扱う商社に入ったが、ここで人生に突然変異が起こった。

**当** 時の社長は、アンディーウォールホルとも親交のあるかなりエッジの効いた人。長髪で外車乗りこなし、社長室はピンクの壁に床はモノトーンの市松模様。渋谷や恵比寿の店にはごひいきの芸能人が多く出入りし、まるで別世界だったと言う。時代は折しもバブル全盛期。「やりすぎぐらいがちょうどいい。ここまでやってもいいんだ」と彼の中で何が弾け飛んだ。

んですけど、たまたま僕が買いたいと思うお菓子屋がなかったんですよ。屋台と言えどもつとスタイリッシュにできないかと思っただけです。こうして川野流の商品開発が始まった。まず、ギャップが面白いと素材な「たい焼き」をセレクト。商品の味はもちろんロゴや屋台のデザインまで全て自らプロデュースし、赤と黒を基調にした未だかつてないオシヤレなたい焼き屋台を作った。ブランドの名前は「TAIHIME」。たい焼きはたちまち丸亀町の人気スイーツになった。しかし、なぜそこまでデザインにこだわるのか。

**そ** れが「デザイン性能」ですよ」とニコリと笑う。上質な美しさやカッコよさは単なる見た目だけではなく、人の心を豊かにする。そしてそれがお客様を心地よくさせる何よりのおもてなしであることを、彼は身を持って知っているのだ。それが、子どもの頃からおしゃれを楽しむ女性の姿を見続けてきた川野さんのDNAの為せる技かもしれない。  
お店のテーマは「おいしいは美しい」。100年以上続いた老舗の魂は、新しい形を伴って再び息を吹き返した。(小西智都子)



屋台の頃の「TAIHIME」





SHOP  
 takamatsu style  
 の顔

04

moani (モアニ)

店主  
 矢野 和宏さん  
 Kazuhiro Yano

昭和41年、高松市生まれの41歳。商店街の若手リーダーでもある。様々な要望に的確に応えられるインテリアのコンサルタントを目指す。

左/アートフラワーがお洒落。インテリアの範疇を意欲的に広げている  
 右/アマチュアバンドYOUNGMANZの元ギタリスト。プロの前座も務めた腕前

**店** 内に入ると、目を輝かやかせた女性客たちが、楽しそうにインテリア用品を品定めしていた。海外で直接買い付けた一品ものの雑貨から、惚れ込んで仕入れたAJIM、grafのブランド家具、上質なカーテンなどのインテリア用品が、センス良くディスプレイされた店内は、自らデザイン。「まだ、僕がイメージしている商品の提案や店の雰囲気になっていないんですよ」。謙遜しながらも力強く語る口調に、店主の矢野和宏さん

の意気込みを感じた。丸亀町商店街振興組合青年会長の役職、若手リーダーとして商店街の販促・イベントに奔走、プロ級の腕前のギター演奏…、そのマルチタレントぶりは、地元では良く知られている。「お客さんの要望や悩みを解決してあげるコンサルタントになることかな」。これからはタレント性は切り捨て、新装開店の3代目店主に徹する決意だ。気軽に立ち寄れる遊び場のような雰囲気づくりと、インテリアのプロ



こだわりのインテリアショップ。  
 一品モノのデザイン雑貨…。  
 華やかで上質なカーテン生地も。



が相談に来てくれる店づくりが目標である。  
**戦** 後間もなく、元軍医の祖父と裁縫の先生をしていた祖母が、片原町に矢野年宏商店を開業。カーテンが窓掛けと呼ばれていた時代、反物を加工した装飾品はすべて自店製。  
 「当時は、既製品がないからすべてオーダーメイドでカーテンやテールクロスを作ってた。とっても忙しかったみたい」  
 昭和50年頃まで店舗2階の倉庫は、仕入れた反物で溢れていたそうだ。メーカー兼小売業が当たり前の時代の様子を、矢野少年ははつきりと覚えている。「手作りの良さを伝えたいから、僕もオリジナル商品にもチャレンジしていく」。ものづくりへのこだわりは、今も引き継がれているのである。  
**武** 蔵野美術大学を卒業後、カーテンメーカーの株式会社キロニーに3年勤め、27歳の時にヤノインテリア(当時の店名)を継ぐ。店を切り盛りする母親が注文を受けたカーテンを、客の自宅に取り付けに行くのが主な仕事だった。「分厚い見本帳をただ見せても、お客さん、なかなか決まらなくてね」。どんな使い方をするのか、壁の素材や色…、客のイメージを具体化する。「いまなら、だいたいお

客の好みは分かるかな…」  
 客の好みを探り、提案する能力を磨いた。マンションや住宅の内装工事も請け負い、職人技術も身につけた。商売の哲学は、13年間のインテリアの実務経験から培った。  
**夫** 婦で決めた新店名 moani (モアニ)は、ハワイ語で、「良い香りの風が吹く」のこと。ネーミングの理由は、ハワイのトロピカルな自然の雰囲気店内に取り入れたかったからだそうだ。「実はまだ、修行中なんです。来店客の多い壱番街での商売は虎の穴にいるような感じかな」。毎日、プレッシャーの中、もがいています。商品セレクト、接客、経営などのすべてに携わりながら、自分の世界観を表現するために日々、悩み、考えている。  
 「思っていることを1年で実現できないとダメでしょう」。近々、2回目の大掛かりな模様替えを予定。建築家、デザイナーらと組んだ新企画も構想中。着々と店づくりを進める店長の動向から、目が離せない。モアニなら、感性豊かな店長がセレクトする素敵なインテリアにきつと出会えるはずである。  
 (廣瀬将人)



Yuda Light —— イスラエルのアーティスト・ユダ作。  
 世界中の良品や一品モノのデザイン雑貨が店内にディスプレイ



# 讃岐漆芸の祖

# 玉楮象谷

# 中国漆器を再現

「さぬきうどん」の本場香川県は、漆器の一大産地でもある。

知名度は低いですが、漆器の

生産量(漆器製台所・食卓用品 経済産業省平成16年度統計)が全国第6位。

漆の木が自生しているわけでもなく、

漆器の木地に適した樹木が

豊富にあるわけでもない。

湿気を好む漆なのに、

雨が少なく乾燥がちの香川県で、

古くから漆器生産が盛んになった。

その原点は、江戸時代末期高松藩の

漆彫司玉楮象谷にある。



昨年2006年が玉楮象谷生誕200年。高松市中央公園にある玉楮象谷像 (彫刻家 新田藤太郎作)

紅花緑葉 鏤盒(こうかりよくよう せんごう) (香川県文化会館蔵) 朱漆と緑漆を数十回ずつ塗り重ねて色漆の層をつくり、朱の層に花や鳥、緑の層に葉を彫り表す「彫彩漆」。ここでは朱の地に黄、緑、朱と塗り重ねて層を作り、鳳凰竹を黄、梧桐(アオギリ)の葉を緑、花と鳳凰と飾枠を朱の層に刻んでいる



彩色蒔罫 御料紙硯匣 (さいしよくきんま おんりょうし すずりばこ) (香川県文化会館蔵) 象谷の籃胎蒔罫の代表作。「料紙」とは、物を書くのに使う紙。料紙箱と硯箱で一揃になる。昭和10年12月18日、国の重要美術品に指定された

## 香川県漆芸研究所

玉楮象谷が活躍した江戸時代末期は、黒漆に金彩が華やかな蒔絵漆器が主流だった。まだ20代だった象谷は、名声が確立されたブランドが数多い「蒔絵」漆器ではなく、立体的な「彫漆」や「蒔罫」せんせい「存清」など彫刻刀で彫り込む技法に挑戦した。それは、複雑な技法修得が必要で、伝来漆器の再現という難しい未開の道でもある。こうして讃岐漆芸の歴史が始まった。

玉楮象谷が確立した、讃岐漆芸の技法を伝承振興させるために、昭和29年(1954年)全国で初めて漆芸後継者養成機関として、香川県漆芸研究所が設立された。後の昭和42年に同じ目的で設立された石川県立輪島漆芸技術研究所と、全国で2校だけである。

彼女はその後、漆を意識しながら普通高校に進学。美術部で油絵などを描きながら、山形県の美術系大学へ。美術科工芸コースで4年



▲岩手県出身の鈴木元子さん。乾漆の箱の小口に和紙を張る。研究生の間には種子島、熊本、奈良、京都、埼玉、群馬などの出身者がいる

◎協力・高松市美術館学芸員 住谷晃一郎氏 (著書「讃岐漆芸 工芸王国の系譜」)  
・香川県漆芸研究所  
・香川県文化会館  
・香川県歴史博物館  
・財団法人 松平公益会







玉楮象谷 (Takamaji Zokoku)

1806年(文化3年)高松外磨屋町生まれ。名は爲三、通称敬造。1869年(明治2年)没。父は鞘塗師を家業とする藤川洪隆

- ※1 蒔絵(まきえ):漆をつけた筆で塗面に文様を描き、乾燥する前に金銀の蒔絵粉を蒔き付けて仕上げる加飾技法。中世までは、主に貴族階級の調度品装飾に使われた。武士階級の台頭後は、建築部材や日用の飲食器にまで、豪華な金粉加飾が付けられた
- ※2 彫漆(ちようしつ):色漆を百回から二百回以上塗り重ねて層を作り、模様の上を削り、刀で漆の層を彫り下げる技法。塗り重ねた緻密な漆の層が模様となり、優雅で美しい仕上がり
- ※3 蒔薨(きんま):漆面に剣という彫刻刀で文様を線彫りし、凹

- みに色漆を埋め、平らになるまで研ぎ出す技法。文様は、東南アジアから輸入された茶器の模様が元
- ※4 存清(ぞんせい):色漆で描かれた模様の輪郭を、刀で毛彫りして隈取ったり、毛彫りした線内に金泥を埋める技法
- ※5 高松工芸高校:国策である殖産興業のために、重要な輸出品であった美術工芸品を作る人材育成を目的として、全国に4校設立した工芸学校。金沢、高岡に続き明治31年(1898年)に設立され、後に有田が加わった。川島 猛の母校でもある
- ※6 堆朱(ついしゆ):約600年前に中国から伝来した彫漆類の一種の日本名。朱漆を数十回厚く塗り重ね、刀で文様を彫り表わす技法。また、朱、緑、茶、黄の漆を塗り重ねた極彩色のもの

- 紅花緑葉(こうかりよくよう)という
- ※7 堆黒(ついこく):彫漆類のうち、黒漆を用いた技法の日本名
- ※8 籃胎(らんたい)漆器:籃は竹籠を意味し、竹籠で編んだ(素地とした)漆器。竹で出来ているので、非常に軽くて丈夫
- ※9 後藤(ごとう)塗:ちりめん状の斑紋模様が特徴。漆塗り行程で、朱漆に指先で模様を付ける。塗りが堅牢で、漆器に限らず座卓や洋家具にまで使われている
- ※10 象谷(ぞうこく)塗:荒ぐりの木地に弁柄(べんがら)摺りをして生漆をハケですり込み、乾燥前に真菰(まごも)を全面にまぶす(菰打ち)。その後、余分な真菰を落とし(菰払い)拭漆仕上げする技法。耐久性があるため、茶托や盆などに広く使われている



香川県漆芸研究所で籃胎漆器制作授業



真剣に磨く男子研究生

「漆芸家になって蒔薨を残しながら、現代的な雑貨も作りたい」と思っています。もの作りの好きな人達といっしょに、漆芸と雑貨

間学んだ。専攻が分かれる2年からは、もちろん漆芸を専攻。卒業後は、大好きな「蒔薨」が学べる、遠い香川県の漆芸研究所の門をなんの躊躇もなくたたいた。

郷土で新しい漆器作りの起業が目的の象谷。有名ブランドが確立され、技術的にも完成された「蒔絵」に飽きたらず、エキゾチックな伝来漆器の「彫漆」「蒔薨」「存清」など、国内では未開拓技法のヒントを郷土に持ち帰る。

二十歳の頃、玉楮象谷は永楽焼の創始者永楽保全が、内外古今の珍しい器物を所蔵しているとの噂を聞き、京都を訪ねる。職人の二人は意気投合した。そして、保全寺の高僧にも気に入られた。そのため、堆朱、堆黒などの伝来唐物漆器や、茶人の愛する南方渡来「キンマ手」籃胎漆器など、当時としては大変貴重な漆器に接し、審美眼も高めていった。

象谷が活躍した江戸末期は、工芸技術の爛熟期。漆工芸でもあらゆる技法が試みられ、特に「蒔絵」は極限まで技が極められていた。光悦、古満、青海などが全国的に有力なブランドだった。

「讀岐漆芸の祖」玉楮象谷の生家は、高松市丸亀町商店街北駐車場のすぐ隣、磨屋町藤森神社横にあつた。周辺は紺屋町、鍛冶屋町、大工町(下の地図)など職業が町名になった、城下町の職人たちが多く住む界隈。父は鞘塗師だが、篆刻と細字で有名だった。玉楮象谷の彫りへのこだわりと冴えは、父親譲りかもしれない。

象谷の銘は「紅花緑葉堂」。自然界の活々とした色彩を好み、植物に負けない華やかな色を使いたいという気持ちで、満ち溢れた屋号である。蒔絵にはない、彫りと色彩を象谷は追い求めた。

漆に見事に映える。しかし、平板。「讀岐漆芸 工芸王国の系譜」の著者で高松市美術館学芸員の住谷晃一郎氏は「瀬戸内の海や空の碧さと、木々の緑の鮮やかさに満ち溢れた郷土香川の気候風土が、その時の象谷の精神に、大きく影響したのでしょ」と推測する。



高松丸亀町番街一丁目

玉楮象谷が唐物漆器を参考に自力で修得した技法は、弟の藤川黒斎や息子達に引継がれた。後に香川県は漆器の一大産地として優秀な漆芸家や職人を輩出。石井馨堂や弟子の音丸耕堂(人間国宝)、讀岐漆芸中興の祖と称される磯井如真(人間国宝)などが、象谷の技

九代高松藩主松平頼恕、十代頼胤に仕え、武士でもないのに名字帯刀を許された玉楮象谷。宝物修理などに関わり、貴重な伝来漆器を観察することが可能だった。そこへ父親譲りの才能が発揮される。立体的で細密な彫りが重要な要素である伝来唐物漆器の技法を、確実に象谷独自の技として身に付けていく。



堆朱二重彫 御贖箱(ついしゆ にじゅうぼり おんつづみばこ)(高松松平家歴史資料)全部堆朱の仕上げで、象谷の代表的な作品。狩野永笑が下図を描き、象谷が彫った。昭和10年12月18日、国の重要美術品に指定された

高松城下町屋敷割図(香川県歴史博物館蔵) 右「漆彫司玉楮敬造」の名が見える



▲象谷の家があつた西村ビル(中央の建物)



さぬきの  
歴史を  
探る(II)

相次ぐ「崇り」  
配流の崇徳上皇

平安末期、保元の乱に敗れ、讃岐へ配流となった悲運の崇徳上皇。都への帰還叶わず、讃岐の地で崩御。

その御陵は、五色台、白峰にひっそりとある。奇しき運命に翻弄され、怨霊伝説をもつさまとう崇徳上皇とは――。

第75代天皇であった崇徳帝の御陵、白峯陵。参拝者の多い四国霊場81番札所、白峰寺の境内にありながら、御陵まで足を運ぶ人は稀である。歴代天皇の御陵でこのような地方にあるのは、淳仁帝の淡路陵、安徳帝の下関阿弥陀寺陵とここだけだ。

疎まれた皇子

強力な白河院政の御世、後の崇徳天皇は鳥羽天皇と中宮璋子(のちの待賢門院)の第一皇子として生まれたが、実は鳥羽天皇の祖父、白河法皇と璋子との子という噂が囁かれていた。5歳で皇位を継ぐが、22歳のとき、父の鳥羽法皇は崇徳を強引に退かせ、わずか3歳の異母弟を近衛天皇として即位させた。しかし、近衛は17歳で崩御。崇徳上皇は我が子を即位させようとするが、近衛を呪詛したとする風説が流れ、鳥羽法皇は璋子との間にできた弟を後白河天皇として皇位に就けた。



坂出市林田町にある雲井御所跡。高松藩主松平頼恕により石碑が建立された



直島にある崇徳天皇神社。崇徳が滞在したといわれる泊浦にある。境内には西行法師の石像も

父子間に深いしこりを残したまま、保元元(1156)年、鳥羽法皇が崩御。その直後、崇徳上皇は後白河を下ろして我が子に皇位を継承させ、自ら院政を敷こうと目論む。これが保元の乱で

ある。崇徳と後白河の対決に、貴族の藤原一門や源氏平氏の武士たちも双方に別れ、父子、兄弟で刃を合わせる骨肉の争いとなった。戦い勃発から4時間、後白河側に奇襲された崇徳側はなす術もなく敗北。仁和寺で捕われの身となった崇徳は、その12日後、讃岐国へ配流となる。

讃岐への配流

讃岐国での崇徳上皇の様子を伝える資料はほとんどない。

上陸地も松山ノ津(現在の坂出市大富屋町あたり)とする説や、直島に立ち寄り、3年間を過ごしたとされる説などがある。直島の東南部には崇徳が上陸したとされる泊浦や島を離れる際、別れを惜しんだ暇浦、都から皇女が訪ねにきた姫泊など崇徳上皇にちなんだ地名が残る。崇徳天皇神社もある。直島という名は、島民の純朴な心根に感激した崇徳上皇が名づけたというのが島での通説だ。

御所が完成するまでは、雲井御所と呼ばれた仮の住まいで過ごした。綾川沿いには雲井御所跡を示す石碑が建つ。綾川を挟んだところには長命寺跡を示す石碑。伝承によればこちらは雲井御所だという説もある。

その後、鼓岡(坂出市府中町鼓岡あたり)に完成した木の丸殿に移される。木の丸殿跡に建てられた鼓岡神社の境内には、崇徳上皇にまつわる遺跡が多く残る。その一つがほととぎす塚。百人一首にも選歌された「瀬をはやみ 岩にせかるる滝川の」の名句でも知られるとおり、短歌に秀でていた崇徳上皇は、ほととぎすの声を聞き、啼けば聞く 聞けば都の恋しさに

この里過ぎよ 山ほととぎす と詠んだ。そのためこの里ではほととぎすが玉章木(ケヤキ)をくわえて啼くのをはばかり、「なかつの里」と呼ばれるようになったという伝説も残る。

帰還叶わず

崩御

配流から8年、都に還る事叶わず、46歳で崩御。病死、自殺、暗殺など諸説入り乱れているが、高松藩五代藩主松平頼恭によって編纂された「讃州府誌」には、刺客により暗殺された」と記されている。

死後、遺体は20日間、野澤井の霊水に浸され、腐敗を防いだ。その間、付近の霊木に神光がさし、そこに崇徳上皇を祀る白峯宮が建てられた。崇徳の遺言どおり白峰で茶毘に付されることになり、白峰に向かう途中、棺を置いた石に血が滴り落ちた。その石を納めたのが血の宮ともいわれる高家神社である。茶毘の煙は天に昇らず都の方へとなびき、山麓にこもった。そこには煙の宮の別名を持つ青海神社が建つ。

怨霊伝説

かつて玉座にあった高貴な人物でありながら、崇徳上皇には恐ろしい怨霊伝説が付きまとう。その発端は軍記物語「保元物語」だろう。寂しい隠遁生活の中でも後世を思い、3年がかりで五部大乘経



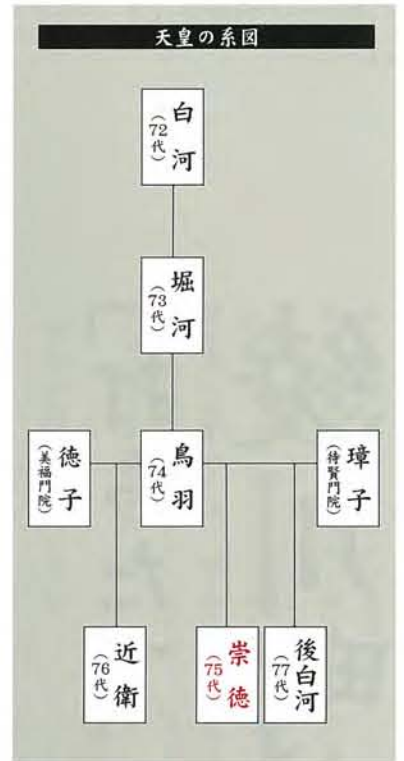
崇徳上皇の死後700余年、明治天皇は即位に際して崇徳帝の御霊を京都に遷御することを決め白峯神宮を創建、その御霊を祀った。白峯神宮所蔵で鎌倉時代に描かれたとされる掛け軸「絹本着色崇徳上皇像」は国の重要文化財。時を経た肖像画からは、高貴な出自を感じさせるふっくらとした輪郭と目鼻立ちがぼんやりとうかがえる。(京都白峯神宮所蔵、京都国立博物館写真提供)

(元永二年)	鳥羽天皇と中宮璋子の第一皇子として生まれる。
(保元四年)	第75代の皇位を継ぎ、崇徳天皇となる。
(大治四年)	白河法皇崩御。鳥羽院政始まる。
(保元四年)	鳥羽法皇と美福門院の間に親王誕生。
(保元四年)	鳥羽法皇の命令で天皇の位を異母弟に譲位。
(永治元年)	近衛天皇即位。
(久寿四年)	近衛天皇が17歳で亡くなり、後白河天皇が即位。
(保元元年)	7・2 鳥羽法皇崩御
(保元元年)	7・11 保元の乱が起こる。
(長寛二年)	7・23 讃岐に流される。
(仁安二年)	8 讃岐国松山ノ津に着き、雲井御所に入る。
(保元三年)	鼓岡の木の丸殿に移る。
(長寛二年)	鼓岡で崩御。
(長寛二年)	白峰山頂で茶毘に付し、陵を築く。
(明治元年)	西行法師が白峯陵を詣でる。
(明治元年)	明治天皇が崇徳の霊を京都へ帰還させ、白峯神宮を創建。





白峯寺の境内、頓証寺の裏手に杉木立に囲まれた白峯陵がある



(全200巻ある天台宗の経典)を書き写し、奉納のために都に送った。しかし、これは後白河を呪詛するものだ。朝廷は受け取りを拒否。怒った崇徳は、舌の先を食いちぎり、流れる血で大乗経の奥に、「日本国ノ大悪魔ト成ラム」という誓いを書き付け海に沈めた。その後は爪も切らず、髪も剃らず、天狗のような形相になったと綴られている。

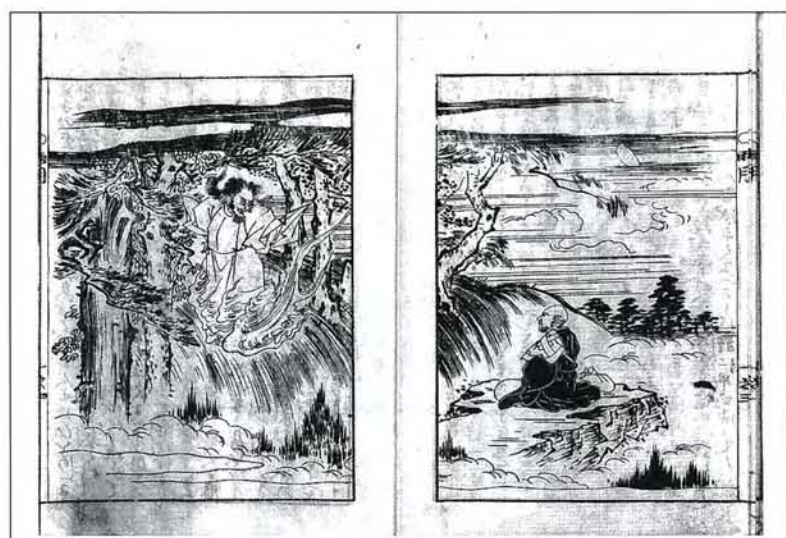
崇徳配流の後、再び都を戦場とする平治の乱が勃発し、死後には都の大火災によって内裏が焼失、平氏一門が瀬戸の藻屑となり、このような世の乱れは崇徳上皇の怨霊によると人々は考えるようになったのだらう。しかし、その後には書かれた吉田経房の日記等によれば、写経した五部大乗経は崇徳の息子、元性法師によって供養されている。

江戸時代には上田秋成が「雨月物語」の冒頭に「白峯」という怪奇小説を書いている。崇徳没後、白峯陵に詣でた西行法師は崇徳上皇の怨霊と壮絶な論戦を繰り広げ、詠歌と読経によりその霊を鎮めたというのがあらずじだ。

白峯には日本八天狗の一人で、崇徳上皇の霊前に仕えた相模坊天狗が住むという伝説もある。この2月、坂出市では今も霊域を守り続けているといわれる相模坊にちなんで「天狗坂出まつり」が行われ、相模坊に扮した案内人とともに白峯陵まで歩く天狗ウォークには約800人が参加した。いつもはひっそりと静まりかえっている御陵にも多くの参拝者が訪れ、厳かに手を合わせていた。(白井ひとみ)



坂出天狗まつりの名物イベント、天狗ウオークは、白峯山麓の松山小から白峯陵までを訪ね歩く。(四国新聞社提供)



「雨月物語 巻之一」より崇徳上皇の怨霊(左)と西行法師(右)が対峙する挿絵 (東京大学文学部国文学研究室蔵、東京大学総合研究博物館協力)



一九六四(昭和39年) 白峯陵と頓証寺で 崇徳院没後800年祭





かき混ぜて麺のくっつきを防ぐのは、  
麺を釜に入れてすぐ。しばらく釜から  
目が離せない

着々と準備されたうどんも出番を  
待つのみ。今日の出来もまずまずだ

旬のワタリガニも絶品。「あ〜贅沢」  
と思いつつも、剥く手に力が入る

うどんの前の腹ごしらえ。  
イダコの煮付けもいい色だ

海の幸をふんだんに使った料理がずらりと並ぶテーブルに、仲間が集結。  
「さぬきグルメの会」のスタートだ

# 綾川町の『岡田うどん』

あやがわ

## 「打ちたて、できたて」を振舞う

一方で「うどんは、農業を家業とする家から生まれた、貧しいがゆえに発明された食べ物だった」

綾歌郡が発祥の地  
うどんの製法が香川に持ち込まれたのは、奈良時代。弘法大師空海によって中国から持ち帰られ、今の綾歌郡綾川町(旧綾南町)に生まれた甥の智泉大徳が、両親のためにうどんを作った。これが、香川で作られた最初のうどんといわれている。  
当時は、ダangoを潰したような丸い麺だったが、江戸時代には今の長い麺が定着。以降、人々の生活にうどんが登場し、家庭では普通にうどんを打っていた。しかし、一度作ると少人数では新鮮なうちに消費できないため、主に大勢が集まる時の食べ物として根付いてきた。

しかし、時代は流れ、大勢が集

「何ぞごと」とは、祭りや慶事に仏事、寄り合いのように多くの人が集まる時のこと。  
麺を打ち、ゆがいて準備しておけば、一度に多くの人に振舞える。接待する側の家にとって、これほど手軽で便利な料理はなかった。今でも県内には、家を新築した時、家人や祝いに駆けつけた人たちの中で一番の年長者から風呂に入り、湯船につかったままうどんを食べる。また、農作業の力仕事をねぎらうため、手伝人にどじょう汁を振舞うという風習も残っている。

空前の「うどんブーム」が席卷している香川県。1970年に大阪で開催された万国博覧会で「讃岐うどん」の名が全国に知られてから約40年。多くのうどん店の紹介本や雑誌が出版され、映画「UDON」、県の観光振興の柱として「うどんツーリズム」が提唱されるなど、今4度目のブームを迎えているという。

と話すのは、綾川町の岡田正照(55)さん。  
麦どころのこの地域に生まれ育ち、町役場の会計室で室長を勤めるかたわら農業を営む岡田さんは、「小麦作りの中で、食事をいかに変化に富んだものにするか」という家庭の知恵からうどんが生まれ、広まったという。だから、昔はうどんを食べるのは珍しかった。今年80歳を迎える岡田さんの母ユリ子さんは、「なんぞごと」がなかったらうどんは食べられないんだ」と話す。



「うどんは打ちたて、できたてが一番うまい」と岡田さん。みんなの喜ぶ顔を思い、丹精込めて打った麺を次々と大釜にいれていく



うどん打ち



ぶっかけ、生醤油…好みの食べ方で心もお腹も満腹、満足だ

誰が言ったか「うどんは別腹!」。待ち構えていた箸が、一斉に伸びる

これぞまさしく、出来立ての「釜揚げ」。みんな、出来たぞ!

麺を引き締める「ビックリ水」は、コシを左右する重要なポイント



うどんの生地を捏ねる作業は、量が多いと足踏みが効果的。会ではもっぱらトラックの荷台の上で、捏ね、のばし、打ちの作業をこなす

1月の晴れた日。綾川町の岡田さん宅に仲間が集った。13年ほど前から始まった「さぬきグルメの会」は、各市町の役所から選出された農業委員会のメンバーを軸に、気の合う仲間が集ること15人。採れたてのタケノコ、マツタケや猪など、四季折々の旬の味覚を楽しもうと結成された。

そんな岡田さんの家でも、うどんを打っていたのは昭和30年後半ごろまでだったという。しかし、「讃岐の人間やのに、うどんが打てんでは話にならん」と20年ほど前、一念発起した岡田さん。自己流で小麦粉や水の配合から、生地作りを研究し、見よう見まねでうどん打ちを始めた。今では、仲間から「岡田うどん」と命名されるほどの腕前。昔ながらの大釜で、出来たてうどんを振舞っている。

「グルメの会」のシメに

まる機会の減少、うどんの流通の拡大、核家族化や高齢化が進んだことで、家でうどんを打つことも少なくなってきた。客人をもてなす料理として、親から子へ、子から孫へと受け継がれてきたうどん打ちには、影を潜めてきた。



手触りを確かめながら生地を伸ばす岡田さん。すっかり職人の顔だ

「うどんの旬はできたて。うまいうどんを食べたい」。ある時は自宅で、ある時は山で、

昔は、かけうどんが主流だったが、今では食べ方も工夫され、楽しみ方も進化。醤油をそのままかけて生醤油うどん、だし醤油でぶっかけ、卵をまぶしてカマ玉うどん。この日は、近くの山で採れたハツタケの佃煮を、汁と一緒に絡めて食べる食べ方も登場した。季節によつては、しつぽくうどん、どじょう汁など、豊富なバリエーションは、うどん王国さぬきならではだ。

「蕎麦打ち」に對抗?

「どんなに走馬を食べても、やっぱりシメは岡田うどん」と絶賛されるうどんが登場。「でけたぞ」という声を皮切りに、釜から直にうどんをすくい、思い思いの味に舌鼓を打っていた。



場所を変えても、うどんは本格的。湯の沸き加減を見て、大釜に打ちたてうどんが入られる

「蕎麦打ち」に對抗? だが、うどんブームも他人事ではない。蕎麦同様、この数年の間にいくつかの店が開業し、いくつかの店を閉めた。(岡谷幸子)

同じ麺でも、香川のブームは、作るより食べる方。うどんを楽しむ文化はさまざま。食べ方を考案し、珍しさが県外への広がりに拍車をかけた。一方で、岡田さんのようにブームに関係なく、純粹にうどんを楽しむ地元人間が根強く支持。うどんは讃岐人の生活に溶け込み、食文化の一つとして根付いている。

昨年出版された本の中で、関東方面で流行る「蕎麦打ち」が紹介されていた。蕎麦の楽しさを普及する目的のブームが、団塊世代の趣味、付き合いのツールとしてブレイク。中には勢いあまって、開業と廃業を短期間で経験した人もいるようだ。

会が開かれる場所がどこであろうと、岡田さんは自前の道具をトラックに積み込み出かけていく。うどんと対峙する姿には、昔の、うどんを客人に振舞う家の主人の心意気が思い起こされる。「うまいうどんは作った人の思いがこもったうどん。おいしさは格段に違う」と会の代表中山一志さんも話す。



1. 讃岐うどんのために開発された小麦「さぬきの夢2000」
2. 生地づくりは最重要ポイント。水、塩、うどん粉の配合には気を配る
3. ほんのり小麦の香りが漂う打ちたて麺。白さが美しい
4. 生地の厚さ、切る幅で口当たりが変わる麺打ち。切り口は上々だ

一大麦どころの讃岐平野。讃岐富士に抱かれて、黄金色に変わった穂の色が収穫の時期を告げる



# 地域住民のルールが作る 美しい街並み

父 最近、各地で景観論争が起こっているね。この間の「まちづくりセミナー」でも話題だったよ。

弟 そうそう。今一番ホットな論争と  
言えば、「イタリア文化会館」（東  
京都千代田区）の「真っ赤な外壁」  
じゃないかな。リニューアルから1  
年以上も論争が続いているらし  
いよ。

姉 靖国神社や千鳥ヶ淵に近いこと  
もあって、昨春、地元住民が「緑あ  
ふれる周辺環境と合わない」と署  
名を集め、東京都や環境省に提出  
したそうよ。都もイタリア政府に  
改善策を求めているようだけどね。

弟 でも、違法ではないんだろ。デザ  
インは素晴らしいと思うけどな。  
イタリアはくっつきさ。

姉 分かってないわね、あ  
んな。

父 要するに「郷に入って  
は郷に従え」ということ  
か。イタリア政府にもそ  
う願いたいね。

—ある一家、3人父姉弟の会議から—



●父 今春、定年を迎える県内の会社員  
今、まちづくりに関心がある

●姉 国際線の客室乗務員。ヨーロッパ  
各国を一年中、飛び回っている

●弟 東京で建築学を学ぶ大学生。夢は  
「建築家として独立すること」

姉 ヨーロッパ人ならそう言えるけど、  
日本人は恥ずかしくて言えない  
んじゃない。国中にこんなに醜い  
景観があふれているんじゃない。

## 全国各地で 論争起きる

弟 そんなにひどい？

姉 いくらだってあるわ。閑静な住宅  
街にそびえる高層マンション、所

構わず設置される派手な看板やネ  
オンサイン、全国どこに行っても  
同じ光景が続くロードサイドショッ  
プ。どれも周辺環境を無視した無  
秩序な開発が生み出したものばか  
りよ。京都でも1990年代ごろ  
に、高層ホテルや駅ビルが建設さ  
れて、風情ある景観が台無しになっ  
たじゃない。美しい景観が壊され  
ることに対する無神経さは、日本  
の最大の欠点だと思うわ。

父 県内でも数年前、丸亀市猪熊弦  
一郎現代美術館付近のマンション  
をめぐる景観論争があったね。「空  
と滝だけが見えるように設計さ  
れた広場からの眺めが損なわれ  
る」と住民グループが建設業者や  
市に景観保全策の検討などを申  
し入れていたけど。

姉 結局、広場からの眺望は守れな  
かった。本当に残念だったわ。そう  
言えば、高松市の栗林公園北側  
に建設予定のマンションでも、地元  
住民の反対運動が起こっている  
んでしょ。

父 住環境が損なわれることも問題  
だけど、公園周辺の景観が  
これ以上壊されるのは、  
公園側にとつて  
も痛手じゃな  
いかな。

弟 でも、どの  
事例も違法  
じゃないん  
だろ。違法じゃ  
ないから、何  
をやってもいい  
は思わないけど、全国  
の地方自治体は今、中心市街  
地の活性化に躍起で、まちなか居  
住人口を何とか増やそうとしてる

じゃない。これらのマンションは、  
この点での貢献は大きいんじゃないの。

## 景観は 地域の共有財産

確かに、そういう考え方はあるわ。  
ここで問題なのは何を第一に考  
えるかなのね。私はやっぱり、景  
観を大切にしないとイケない  
と思うの。景観はそこに暮らす住  
民の財産だから。

父 日本では「自分の土地だから何  
を建ててもいい」という権利ば  
かりが大事にされて、共同体の  
一員という意識は薄いよ。周辺  
景観への配慮も欠けている気が  
するね。

姉 ドイツでは「自分の土地だから…」  
という理屈は決して通らない。景  
観を壊すような建物は、行政も住  
民も地域の企業も許さないわ。景  
観は長い年月をかけて形成され  
てきた地域住民の共通財産とい  
う認識が、法制度以前にきっちり  
根付いているから。

弟 ドイツのロマンチック街道の街  
は、まとまっ  
ていて美  
しいね。  
戦争で  
同じよ  
うに焼  
け野原  
になっ  
たのに、ド

イツでは大都  
市でも元通りに復  
元したと知ってびっくり  
したよ。背景には地域に対する  
住民のこんな思いがあったんだ。







スイスの玄関、チューリッヒ。メインのショッピングモールの様子。そろった壁面と、5階の高さに統一された街並みが美しい。路面電車のみ通行可能で、並木と充実した歩行者空間が確保され賑わいを見せる

父  
日本も昔はこんなじゃなかったのに。いつから変になったのか。

弟  
日本人の美的センスは、決して低くない。なのに、なぜ、景観や街並みにはそのセンスが発揮されないのかな。この間の講義で、担当教授が「大正時代には『都市美』を唱え、都市景観の重要性を訴える活動があった」と言っていたけど、戦後は一変、経済が優先される中、

姉

「都市美」はすっかり忘れられてしまったようだね。

物質的な豊かさを手に入れると同時に、地域間の絆が弱まり、「自分のまち」という感覚がなくなってきたのは確かだね。周辺環境への愛着も薄れてきた。というより、関心の外に置いてしまった。これがドイツの街並みとの差を生んだのね。景観は地域の本当の豊かさを象徴しているのに。

### 地域独自のルールが必要

父  
それにしても、景観問題では行政は頼りにならないな。都市計画法とかで、何とかできなかったのかね。

弟  
擁護するわけではないけど、都市計画法では長く地方自治体は蚊帳の外だったんだ。国が全国一律の基準で対応していたからね。2000年の改正でようやく、権限が委譲されて地域特性にあった土地利用が可能になったんだって。

姉

地域独自の美しい景観形成を目指すして、2005年6月には景観法も全面施行されたし。少しずつだけ変わってきたわ。これを受けて、市町村などが景観計画を定め、高さ、形、色など細かく規制する動きが活発化しているじゃない。そんなことも背景にあったんだ。

弟

景観法に過剰な期待を寄せない方がいいんじゃない。保全を訴える人々の間では、効力を疑問視する声も多いからね。

姉

大事なのは、住民、行政、企業という地域の構成員が集まり、景観の価値を認め合い、それをどうするかを考えることじゃないかな。マシオンだって、景観を守る建て方は絶対にあるはず。それを協議する場が、地域にも行政にもなかったことが一番の問題じゃないかしら。地域独自のルールが必要なのよ。そういう意味では、建設業者だけを責めることはできないわ。

### 景観保全へ規制を強化

弟  
地域独自のルールが力を発揮した事例があるよ。百貨店の松坂屋は昨年2月、銀座店（東京都中央区）の建て替え案として、高さが56〜190mの4案を示したんだけど、10月に区が銀座の建物の高さを制限する条例を定めただ。結局、松坂屋は銀座ルールの「高さ56m以下」に従うことを決めたんだよ。銀座では、建物のデザインや色などを、地元代表らでつくる協議会で事前に話し合うことにもなっているから、銀座らしい百貨店になるんじゃないの。

父

京都市では、建物の高さはもちろん、屋根や壁の色、デザイン、屋外広告物まで、かなり思い切った制限を設ける条例が成立したね。どうなるんだろう。うまくいくのかな。

姉

地元の新聞社が行った調査によると、市の規制強化を8割強が支持している上に、自ら規制を受け入れると答えた市民も7割を超

父

えていたんだって。いろいろ言うんだけど、やっぱり京都市民はすごい。私たちも見習わなければならぬわね。

つめ直すことが大事だね。



姉

そして、好きにならなければ。地域の人々が集まって、暮らしを第一に、統一感ある街並みを維持できるような努力していかなければならないということか。もちろん、協議の場には、行政や建設業者にも参加してもらわないと。

これは銀座や京都市などの特別な地域だけの問題ではないわ。それぞれの地域で望ましい景観のイメージを共有することから始めないとね。  
(小島遼)

#### ◎景観法

都市計画法など関連法の整備を図る景観法関連法、大規模開発時の緑地整備を義務付けた都市緑地法と合わせて「景観緑3法」とも呼ばれている。都道府県や市町村などの景観行政団体は「景観計画」を定め、計画区域内では建物のデザイン、色、高さなどを制限することが可能となり、条例により変更命令も出せる。より積極的に景観形成を図る「景観地区」を都市計画に定めることもできる。



栗林公園を囲むように立ち並ぶ高層ビル。香川県庁本館21階展望室よりの眺望(高松市番町)



銀座のルールに従い高層建てを断念した松坂屋銀座店(東京都中央区)



真っ赤な外壁が物議を醸しているイタリア文化会館(東京都千代田区)





**Q** 老番街や商店街で、もう少し休憩するスペースは増えませんか。

**A** 自転車道の横の街路スペースに、休憩できるベンチを8箇所、設置することになっています。また、老番街ビル内およびレッツホールで、地元アーティスト製作の不思議なイス、楽しいイスを多数展示する、「丸亀町アートプロジェクト」(仮称)を近々開催します。

**Q** ドームの工事が始まっていますが、どんなものができるのでしょうか。

**A** 高さ33m、直径25mの壮大なガラス張りの円形ドームが、6月下旬に完成します。全国の商店街の中でも他に例がなく、おそらく最大の規模になります。このドーム下の円形広場には、高松出身でN.Y在住の川島猛氏デザインによるアート歩道が同時にお目見えします。(ページ下に原画)



**Q** 駐輪機を見かけますが、使い方がよく分かりません。

**A** 老番街(西館・東館)に、3ヶ所設置しました。1日100円(1時間以内は無料)の利用料で、安心してショッピングをお楽しみいただけます。利用できる自転車の全長は、1m95cm以下、高さは、1m25cm以下、タイヤサイズは、18~28インチ、前カゴの高さは、底面が地面から58cm以上となっております。なお、後部カゴ、サイドカゴのついた自転車は入庫できません。さらに、故障車(パンク、チェーン外れなど)や傘などを差し込んだままでは入庫できません。



出庫する際は、パーキングカードを側面のカード投入口に入ると自動的に扉が空き、自転車が出てきます。1時間以内のご利用の場合は、まず料金精算機にパーキングカードを入れていただく、100円が戻ってきます。その後、パーキングカードを側面のカード投入口に入れてください。



扉が開くので自転車をセッティングすると自動的に自転車が格納されます



料金精算機の左側側面にあるカード投入口にパーキングカードを入れてください



100円または共通駐車サービス券を入れるとパーキングカードが出てきます



料金精算機のタッチパネルに手を触れてください

◎利用方法

**Q** 春には老番街で何かイベントはありますか。

**A** 4月にはヨーロッパの朝市のような屋台「老番街マルシェ」を期間限定で開きます。こだわりの野菜、食材、調味料、ワインなどを揃え、各店での試食会や試飲会も行います。また鬼無の盆栽をテーマにした「What's BONSAI?」も企画中です。

**Q** レストランの「ミクニ」がでけると聞きましたが、開店はいつですか。

**A** 老番街西館の4階に、4月下旬頃オープンする予定です。オープンに際しては限定メニューなどもそろえる予定です。また、ウェディングやパーティなどにもご利用いただけるバンケットルームを併設します。現在予約も受け付けています。お問い合わせ・予約  
087-822-0392

●高松丸亀町まちづくり株式会社が回答しました。  
ご意見、ご感想やご質問などをお寄せください。  
F A X 087-823-1433  
E-mail ichibangai@marugamemachi.ne.jp



ドーム下広場および自転車道に、川島 猛 氏デザイン・監修による  
**アート広場・自転車道が登場。**



ドーム下広場/自転車道アート・オリジナル原画(川島 猛 作)  
※現在制作途中のため、実際とはデザインが異なります。



[季刊誌]

高松スタイル

# Anki

Vol.02 April 2007 [あんき]

編集・制作 ■ 「Anki」編集委員会

編集長 ■ 高尾 朝

アートディレクター ■ 仁田貴夫

エディター ■ 小西智都子

白井ひとみ

廣瀬将人

岡谷幸子

小島 遼

仁田貴夫

デザイナー ■ 木村由香

眞鍋亜希子

フォトグラファー ■ 中村政秀

岡本 衛

仁田貴夫

藤田幸裕

イラストレーター ■ 広田桂子

mugimamedo

印刷 ■ 滝川印刷株式会社

発行 ■ 高松丸亀町まちづくり株式会社

〒760-0029

香川県高松市丸亀町13番地2

丸亀町ビル

問い合わせ先 ■ 高松丸亀町まちづくり株式会社内

tel.087-823-0001

fax.087-823-1433

ichibangai@marugamemachi.ne.jp

http://www.kame3.jp

○お詫び Anki創刊号に掲載した向田邦子さんの記事について、「震災前の高松市住宅地図を復元する会」が作成した地図を許可なく掲載しましたことをお詫び申し上げます。(小西)

◎次号は、  
2007年7月1日  
発行です。

定価200円(税込)

高松スタイル「Anki」へのご意見、ご感想や

ご質問などをお寄せください。

F A X 087-823-1433

E-mail ichibangai@marugamemachi.ne.jp

©高松丸亀町まちづくり株式会社 2007

本誌記事の無断転載を固く禁じます。

## 壹番街 SHOP発



壹番街に姿を現わした  
工事中のドーム  
(2007年3月12日撮影)



BVLGARI キーホルダー  
¥32,550(税込)

カルティエ、ブルガリ、S.T.デュボ  
ン等、プレッシャーに最適な上  
質な小物を用意しています。

### アイアイイスズ ヴァンキヤトル



販売期間/3月1日(木)~5月31日(木)  
単品価格/¥546(税込)  
Mサイズドリンクセット価格/¥756(税込)

### 銀座三丁目マゼラン

母フェアー開催中!旬のいちご  
を使用した商品を多数販売中!  
定番メニューのチーズケーキに  
季節限定ストロベリーチーズケー  
キや、母のシフォン・タルト、その  
他、母のクリームパイシューなど、  
春の商品が盛りだくさん!4  
月末までの販売です。



携帯サイト  
http://www.kinokuniya.co.jp  
http://mobile.kinokuniya.co.jp

### 紀伊國屋書店 高松店 DVD&CD Forest

演劇・舞台関係のDVDが充実。  
「劇団☆新感線」やバルコの作品  
をはじめ、三谷幸喜・蛭川幸雄の  
舞台作品が人気です。ネットや講  
演会場でしか手に入らなかった  
DVDもあり。またクラシッ  
ク音楽のDVDも自慢の品揃え。  
2月からは新書館クラシックパレ  
エDVDも取扱いを始めました。  
紀伊國屋書店レーベルの名作映  
画の数々や、時代劇、テレビドラ  
マ、そして特撮作品まで、全品  
1割引で販売しています。  
紀伊國屋書店では書籍、DVD  
の在庫がネットで確認できます。  
◎PCサイト

### BAGEL & BAGEL

N.Y.スタイルのベーグル専門店  
BAGEL & BAGELに春の  
新作、シズナルサンド「ヤンキー  
スバーガー」が登場。  
”しっとり&もちもち”のベーグ  
ルにジューシーなハンバーグと、  
とろりとろけるチーズ、フレッ  
シュな野菜をサンドし、自家製  
ソースでスパイシーに仕上げた  
ボリュームのある一品。

### 野田屋電機

高松ではあまり見ることので  
きない、デザインにこだわった  
「輸入・デザイン家電」を多数品  
揃えしております。取扱いブラ  
ンドは「デロンギ」「amadana」  
「±0」「ティファール」etc...  
もちろん販売だけに限らず修理  
等アフターもしておりますので  
お任せください。



Hot Water Dispenser  
¥15,750(税込)

### オフオン



陶器のキリンやゾウに入ったプ  
ランツなど、プチギフトにもびっ  
たりなグリーンが揃っています。

illustration: 広田桂子

